



Data

監督・脚本：ベルナルド・ベルトル
ツチ

出演：/マーロン・ブランド/マリア・シュナイダー/ジャン＝ピエール・レオ/マッシモ・ジロッチ/マリア・ミキ

■ショートコメント■

◆タイトルは言うまでもなく、主演のマーロン・ブランドも、監督のベルナルド・ベルトリッチもチョー有名な本作は、1972年の映画だが、日本で上映された時に観るチャンスはなかった。それが今、4Kデジタルリマスター版で復活と聞けば、そりゃ必見！

◆マーロン・ブランドの主演ながら、本作はポルノ映画まがいの問題作と聞いていたが、ここまでとは！本場のイタリアでは、あまりにも大胆な性描写のため、公開後4日にして上映禁止処分を受けたうえ、わいせつ映画だとしてポルノ裁判にかけられ、マーロン・ブランドとマリア・シュナイダーは有罪になってしまったそうだから、日本で言えば本作は、武智鉄二監督の『黒い雪』（65年）のような問題作だ。そんな映画が4Kデジタルリマスター版で再上映されたのは、2018年1月にベルナルド・ベルトリッチ監督が死去したことを受けて、追悼企画が実現したためだ。

◆冒頭のアパルトマンの一室で、うらびれた中年男のポール（マーロン・ブランド）がおしゃれな若い娘ジャンヌ（マリア・シュナイダー）を犯すシーンはかなり違和感がある。しかし、良くも悪くもこれが本作の問題提起。このシーンの撮影については、あらかじめマリア・シュナイダーの承認をとっていなかったことが後日明らかにされて、問題になったそうだが、そりゃいくらなんでも如何なもの・・・？もっとも、「犯すシーン」といっても、それは“強姦”と呼べるものとも思えないから、そこらあたりは微妙・・・。

◆ベルナルド・ベルトリッチ監督といえば、なんとと言っても『ラストエンペラー』（87年）が有名で、その壮大な物語に圧倒されたが、それと比べると、本作は何とも・・・？

また、マーロン・ブランドといえば何といっても、『ゴッドファーザー』(72年)でのマフィアのボス、ドン・コルレオーレ役が有名だが、そこでの圧倒的な存在感に比べると本作は何とも・・・。

導入部ではどんな展開になるか固唾を呑んで見守ったが、中盤以降はかなり退屈感も。マーロン・ブランドの「メソッド俳優」としてのレベルの高さはよくわかるが、いかんせんストーリーがこんな平板なものでは、2時間9分はちょっとしんどい・・・。

2019(平成31)年4月17日記